

平成24年度第1回臨時理事会議事録

日時：平成24年4月12日 11:00～12:40

会場：神戸ポートピアホテル 南館B1F 「ダイヤモンド」

出席者

理事長：小西 郁生

副理事長：岡井 崇、落合 和徳

理事：岩下 光利、宇田川 康博、海野 信也、大道 正英、片渕 秀隆、嘉村 敏治、
吉川 史隆、木村 正、工藤 美樹、上妻 志郎、小森 慎二、田中 憲一、堂地 勉、
深谷 孝夫、水沼 英樹、水上 尚典、峯岸 敬、八重樫 伸生、吉川 裕之、
吉村 泰典

監事：岡村 州博、武谷 雄二、和氣 徳夫

第64回学術集会長：平松 祐司

第65回学術集会長：櫻木 範明

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹事：上田 豊、梶山 広明、金内 優典、北澤 正文、小林 陽一、榊原 秀也、
佐藤 豊実、下平 和久、高倉 聡、多賀谷 光、永瀬 智、中村 和人、
阪埜 浩司、藤原 浩、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

専門委員会委員長：青木 陽一

理事会内委員会委員長：竹下 俊行

第66回学術集会プログラム委員長：濱田 洋実

名誉会員：関場 香、武田 佳彦、前田 一雄

弁護士：平岩 敬一

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

11時00分 理事長、副理事長、常務理事、理事の総数23名全員が出席し定足数に達したため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、岡村州博監事、武谷雄二監事、和氣徳夫監事の計4名を選任し、これを承認した。

I. 平成23年度第4回理事会議事録の確認
原案通り、承認した。

II. 業務担当常務理事報告

1) 総務 (岩下光利理事)

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

- ① 榎木勇名誉会員(京都) が3月1日にご逝去された。(弔電手配済、香典・供花は辞退)
- ② 天津實功労会員(和歌山) が3月10日にご逝去された。(弔電手配済、香典・供花は辞退)
- ③ 大野虎之進功労会員(千葉) が3月19日に逝去された。(千葉学会より3月29日連絡受領)

(2) 平成 23 年度入会年度別・卒業年度別新入会員数及び平成 23 年度末会員数について
平成 23 年 3 月 31 日現在の会員数は 15,926 名であった。[資料：総務 1]

(3) 学術集会中のビジネス会議のスケジュールについて [資料：総務 2]

(4) 総会運営委員会委員、決算委員会委員について [資料：総務 3]
本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(5) FIG02021 会長候補選考ワーキンググループを設置した。委員は以下の先生方である。

委員長：小西郁生

委員：岩下光利、岡井崇、落合和徳、峯岸敬、吉村泰典

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(6) 厚生労働省の行政処分について [資料：総務 4]

岩下光利理事「産婦人科の医師 1 名が処分を受けているが、本人はすでに閉院しており本会からも退会している。」

(7) 平成 24 年度日本産科婦人科学会予定表について [資料：総務 5]

平成 25 年度第 1 回理事会を、6 月 1 日に変更した。

(8) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

4 月 4 日現在、入金済 5,595 冊、校費支払のため後払希望 10 冊。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①日本性感感染症学会から、HPV ワクチンの男性適用拡大の要望書を日本皮膚科学会や日本泌尿器学会等と共同で厚生労働省に提出したいとの提案があり、本会としてこれに賛同した。

[資料：総務 6]

②厚生労働省委託事業リンパ浮腫研修委員会における合意事項の広報の依頼があった。これに対する婦人科腫瘍委員会からの回答を 3 月の常務理事会で協議し、これを本会の意見として先方に回答した。 [資料：総務 7、7-1]

③「子宮頸癌取扱い規約」及び「子宮体癌取扱い規約」(第 3 版) の出版にあたり、著作権者である本会、日本病理学会、日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会と出版権者である金原出版(株) の 5 者で、両規約に関する申し合わせと出版契約書を締結した。

[資料：総務 8]

(ハ) 周産期委員会

①ジノプロスト注射液の用法・用量の変更に関する要望書について、小野薬品工業から厚生労働省と協議する旨の回答があった。またこの要望書に関連する資料を 3 月 7 日に提出した。 [資料：総務 9、9-1]

岡井崇副理事長「この要望書への対応を協議するとしているが、協議の結果、本会の要望が通らないのでは困るので、協議の過程で関与することはできないのか。」

海野信也委員長「厚生労働省でも同様の問題意識は持っており、基本的には本会の要望に応じる

方向で進んでいるようである。」

落合和徳副理事長「本会の要望は日本医師会の疑義解釈委員会でも伝えている。」

- ②生後一ヶ月検診での便のチェックによる先天性胆道閉鎖症の早期発見について胆道閉鎖症スクリーニングに関するマニュアルと小さなカードを機関誌に同封して会員への周知を行うこととした。 [資料:総務 10]

(二) 女性ヘルスケア委員会 特になし

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省

- ①厚生労働省保険局より、「出産育児一時金等の支給申請及び支払方法について」の一部改正についての通知を受領した。機関誌に掲載して会員に周知した。 [資料:総務 11]
- ②厚生労働省医薬食品局より、「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」の一部改正についての通知を受領した。本会ホームページに掲載して会員に周知した。 [資料:総務 12]
- ③厚生労働省雇用均等・児童家庭局より、医療ネグレクトにより児童の生命・身体に重大な影響がある場合の対応についての通知を受領した。本会の機関誌に掲載して会員へ周知した。 [資料:総務 13]

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会

- ①日本医学会役員選挙の結果について、通知があった。 [資料:総務 14]
- ②平成 23 年度の日本医学会に新規に加盟する学会に、日本脊椎脊髄病学会と日本緩和医療学会が決定されたとの通知があった。 [資料:総務 15]
- ③日本医学会臨床部会運営委員会委員の推薦依頼があった。本会としては落合和徳副理事長に重任をお願いし、了解が得られたので推薦した。 [資料:総務 16]
- ④日本医学会を通して厚生労働省などから石綿健康被害救済制度の周知依頼があった。機関誌に掲載して会員への周知を図ることとした。 [資料:総務 17]
- ⑤日本医学会を通して科学技術振興機構から同機構の平成 24 年度研究提案募集の周知依頼があった。本会ホームページに掲載して会員への周知を図ることとした。 [資料:総務 18]
- ⑥日本医学会を通して厚生労働省医政局研究開発振興課から「臨床研究に関する倫理指針」の周知徹底依頼があった。本会ホームページに掲載して会員に周知した。 [資料:総務 19]
- ⑦日本医学会から、同会の次期評議員、連絡委員、医学用語委員及び代委員の選出依頼を受領した。本会としては、評議員 小西郁生先生、連絡委員 岩下光利先生、用語委員 八重樫伸生先生、代委員 水沼英樹先生を推薦したい。各委員の任期は平成 26 年 3 月 31 日までの 2 年間である。 [資料:総務 20]

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

- ⑧日本医学会を通して、厚生労働省医政局長より「臨床研究・治験活性化 5 か年計画 2012」について、同省医政局研究開発振興課から「平成 24 年度日本主導型グローバル臨床研究体制整備事業」について、の周知依頼があった。本会ホームページに掲載して会員への周知を図ることとした。

(2) 日本癌治療学会

日本癌治療学会がん診療ガイドライン委員会子宮頸がん、子宮体がん及び卵巣がんの担当委員、協力委員及び評価委員の国会からの推薦について、同学会から正式に委嘱する旨の通知を受領した。 [資料：総務 21]

(3) 日本学術振興会

平成 24 年度日本学術振興会育志賞受賞候補者の推薦依頼を受領した。 [資料：総務 22]

(4) 国立精神・神経医療研究センター

同センターが主催するシンポジウム「自殺対策のこれから—自殺総合対策大綱改正に向けての提言」への参加依頼を受領した。 [資料：総務 23]

(5) 日本救急医療財団

日本救急医療財団では、同財団が実施している救急救命士の国家試験の試験委員を本会理事の上妻志郎先生に委嘱していたが、今回上妻先生が辞任されるにあたり、国会から後任の委員の推薦依頼があった。国会から聖マリアンナ医科大学の田中守先生にお願いした。

(6) 神戸国際医療交流財団

神戸国際医療交流財団より、安全な急速輸血装置開発のための支援依頼があった。国会としてもこれに協力することとした。 [資料：総務 24]

(7) 日本家族計画協会

同協会主催の松本賞において、国会の水尚典理事が受賞された。震災後の情報発信を評価されたものである。 [資料：総務 25]

[IV. その他]

(1) 中外製薬株式会社

中外製薬株式会社より国会から推薦した 5 名の評価委員による「抗インフルエンザウイルス薬投与妊婦の出産と小児に対する特定使用成績調査」症例評価検討会の開催依頼を受領した。 [資料：総務 26]

(2) 一般社団法人 日本母乳の会より、第 21 回母乳育児シンポジウム（開催日時：平成 24 年 8 月 4～5 日、場所：岡山ロイヤルホテル）の後援名義許可依頼があった。経済的な負担もないことから、これを応諾したい。

(3) 株式会社博報堂より、朝日新聞社が主催する市民公開講座「ワクチン・ギャップを考える」(仮)（開催日時：平成 24 年 7 月 1 日、場所：都内ホールの予定）の共催名義許可依頼があった。経済的な負担もないことから、これを応諾したい。

2) 会 計（岡井 崇副理事長） 特になし

3) 学 術（峯岸 敬理事）

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催

- ①第64回学術講演会 IS Award 選考委員会を4月13日に開催する予定である。
- ②第64回学術講演会優秀演題賞選考委員会を4月13日に開催する予定である。

(ロ)福井大学 小辻文和先生の学術委員会委員の辞任について

峯岸敬理事「小辻先生は、退官に伴い学術委員会委員を辞したいとのご意向であり、これを了承したい。この欠員について補充は行わない方向で考えている。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(2) プログラム委員会関連

(イ) 第64回学術講演会プログラム委員会

(ロ) 第65回学術講演会プログラム委員会

(ハ) 第66回学術講演会プログラム委員会

4) 編集 (上妻志郎理事)

(1) 会議開催 なし

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況 : 2012年投稿分 (3月末現在)

投稿数266編 (うち Accept 7編、Reject 90編、Withdrawn/Unsubmitted 55編、Under Revision 9編、Under Review 105編、Pending 0編、Expired 0編)

(3) 和文機関誌オンライン化について

和文機関誌のオンライン化については、できるだけ早急に対応すべく杏林舎並びに関係部署と協議を行っている。

(4)編集内規・投稿要領について [資料:編集1]

海野信也委員長「重複投稿などの投稿規定違反にはペナルティを課すとしているが、その内容については規定があるのか。事前に決めておかないと、実際のケースで苦勞することがある。」

上妻志郎理事「内規として、細かい規則を制定してある。」

落合和徳副理事長「英文でも同様に規定があるのか。」

上妻志郎理事「むしろ英文を中心に決めている。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(5)JOGR Editor の解委嘱ならびに Associate Editor の委嘱について

JOGR Editor である池ノ上克先生 (宮崎大学) より辞任の意向を示され、これを了承した。

また、JOGR Associate Editor に山澤功二先生 (千葉大学) を追加委嘱する。

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

5) 渉外 (木村 正理事)

(1) 会議開催

3月16日に第3回渉外理事・幹事会議を開催した。

[FIGO 関係]

(1) FIGO 2021 開催候補地について、第64回日産婦学会学術講演会開催を経て決定することとした。

(2) FIGO Election Process について [資料: 渉外1]

木村正理事「FIGO の役員に立候補される方は、6月1日締切なので渉外までご連絡をいただきたい。

また理事国の推薦については理事長に一任ということでよいか、ご意見をいただきたい。」

落合和徳副理事長「3年前の前回投票時には、FIGO の役員から情報を集めて対応を決めていた。今回も情報収集を行ってはどうか。」

小西郁生理事長「今回学術講演会に来られている先生方などから情報を集め、全体の状況を勘案した上で決めていきたい。」

小西郁生理事長の提示した方針につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

上妻志郎理事「FIGO 誘致については AFOFG メンバーのサポートが必要となるが、本会は立候補の意思を既に対外的に示しているのか。」

木村正理事「AFOFG に対しては具体的には何も言っていない。5月のカウンセルミーティングで個別に話をしていきたい。正式な立候補となる2014年まではオープンに動くことはできないので、個人的によろしくと伝えていくことしかできない状況である。」

落合和徳副理事長「2021年は AFOFG メンバーが立候補対象国になるので、デリケートな所もある。今回の理事国の推薦も将来の動きを勘案して対応することが必要である。」

上妻志郎理事「AFOFG では、南アジアの国々に勢いがある印象を持つが、そういったことも意識した動きを考えた方が良い。」

(3) FIGO 2012 に合わせローマにて行われる FIGO 総会に、本会より小西郁生理事長、落合和徳副理事長、上妻志郎理事、木村正理事を派遣の予定である。

(4) 第64回日産婦学会学術講演会における FIGO Forum 及び International Workshop に多数参加いただけるよう、全国大学病院、近畿産婦人科学会支部長、大阪産婦人科医会会員、及び Exchange Program に派遣の海外若手医師へ情報を流し、また、ホームページを通して周知を行った。

[KSOG 関係]

(1) 名誉会員 Y S Chang 先生 (韓国) に対し、本会からの感謝状を4月12日開催の平成24年度臨時総会にて授与することとなった。

6) 社 保 (吉川裕之理事)

(1) 会議開催

- ①3月16日に第2回婦人科内視鏡悪性腫瘍手術に関する関連団体協議会を開催した。
- ②3月16日、第3回社会保険診療報酬改定提案ワーキンググループ及び第5回社会保険委員会を開催した。
- ③5月18日、第1回社会保険診療報酬改定提案ワーキンググループ、及び第1回社会保険委員会を開催の予定である。

(2) 疑義解釈委員会より平成23年度第4回供給停止予定品目について検討依頼を受領し、本会理事及び社保委員による検討結果を回答した。

(3) 抗HBs人免疫グロブリンの開発要望について変更検討不要と判断したことに対して、厚生労働省医薬食品局審査管理課に再検討を依頼する要望書を送った。 [資料:社保1]

(4) 平成24年度診療報酬改定について、吉川裕之委員長が株式会社じほうの取材を受けた。

(5) 「不規則抗体検査の妊婦への適応拡大と不規則抗体定量検査の保険収載に関する要望書」を日本産婦人科医会等と連名で厚生労働大臣宛に提出したい。 [資料:社保 無番]

水上尚典理事「ガイドラインでは不規則抗体スクリーニング検査を推奨しているが、陽性となった場合に不規則抗体がどういう種類の物かの同定は保険適用になっていないとの指摘を受けた。抗体価測定を含めて保険収載してほしいとの要望を出したい。」

吉川裕之理事「本来は内保連の要望として昨年提出すべきであったが洩れていた。案件の緊急性に鑑みてここで要望を出すことにしたい。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

7) 専門医制度 (吉川史隆理事)

(1) 日本専門医制評価・認定機構

- ①日本専門医制評価・認定機構より役員の推薦依頼書面を受領(3月19日)し、小西郁生理事を推薦した。 [資料:専門医1]
- ②本学会における2階部分(subspecialty領域)の専門医制度についてのヒアリングが3月9日に行われ、吉川史隆委員長、小西郁生理事、桜田佳久事務局長が出席した。

(2) 地方委員会宛通知

平成24年度審査等に関わる各種様式・研修出席証明シール、平成24年度専門医認定審査等についての案内を平成24年度事業計画を添えて地方委員会宛に3月9日に送付した。

(3) 専攻医指導施設指導責任医宛通知

3年目の専攻医のうち4月以降の入局予定者数のアンケート書面と専攻医指導施設指定基準改訂と施設区分指定基準決定の書面を指導施設指導責任医と地方委員長宛に3月1日に送付した。 [資料:専門医2、3]

木村正理事「アンケートについて、入局という表現より産婦人科専攻研修開始者という表現にしたほうが誤解が生じないと思う。」

吉川史隆理事「来年度は変更したい。」

8) 倫理委員会（落合和徳委員長）

(1) 本会の見解に基づく諸登録（平成24年3月31日）

- ① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：45 研究
- ② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：572 施設
- ③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：572 施設
- ④ 顕微授精に関する登録：507 施設
- ⑤ 非配偶者間人工授精に関する登録：16 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

4月2日現在申請 271 例 [承認 230 例、非承認 4 例、審査対象外 18 例、取り下げ 1 例、照会 6 例、審査中 12 例]（承認 230 例のうち 7 例は条件付） [資料：倫理 1]

(3) 会議開催

- ① 「平成23年度第4回倫理委員会」を3月19日に開催した。同委員会にセント・ルカ産婦人科の宇津宮隆史先生をお招きし、着床前診断に関する申請についての意見交換を行った。
[資料：倫理 2]

落合和徳委員長「宇津宮先生からは、審査対象外ということについて誤解があったので今後は行わないとのコメントがあり、本会からは、会告を遵守して今後の医療に当たっていただきたいと要請した。」

- ② 「出生前に行われる検査および診断に関する見解」改定案ワーキンググループ委員会を3月30日に開催した。

落合和徳委員長「現在、出生前検査におけるゲノムワイドな検査が行われているが、母体血 DNA でも同様な検査が始まることで、本会としての考え方を固める必要があるとしてこの委員会をスタートさせることとした。本件はマスコミ等も関心を持っているようだが、理事会としてもこの活動についてご理解をいただきたい。」

和氣徳夫監事「母体血を使った出生前診断の精度はどのように考えられているのか。」

落合和徳委員長「精度について一部には摸索レベルのものもあるが、本会としてはその点についてきちんと把握しておく予定である。」

齋藤滋委員長「出生前診断の大半が習慣流産の方である。出生前診断の実施と妊娠成功率の関係を示して行くことで安易な出生前診断は減ると思うので、その観点からもワーキンググループでのご検討をお願いしたい。」

(4) 「出生前に行われる検査および診断に関する見解」改定案ワーキンググループ委員会の委員を京都大学の山田重人先生に委嘱した。

9) 教育（八重樫伸生理事）

(1) 会議開催

- ① 4月14日に第4回若手医師企画打合会を開催する予定である。

(2) 「産婦人科研修の必修知識2011」頒布状況について

4月4日現在、入金済 5,749 冊、校費支払のため後払希望 48 冊。

(3) 「癒着胎盤」の用語について [資料：教育 1]

(4) 第4回若手医師企画コメンテーター依頼

下記、7名の先生方にコメンテーターを依頼したが、大野 泰正先生からは一般演題講演との重複のためお断りがあった。今後の対応に関しては若手医師企画委員に任せる予定である。新井隆成先生(金沢大学)、大野泰正先生(大野レディースクリニック)、金尾祐之先生(倉敷成人病センター)、北出真理先生(順天堂大学)、小西郁生先生(京都大学)、鈴木彩子先生(京都大学)、三上幹男先生(東海大学)

(5)平成20年度に西日本高速道路エリアパートナーズ倶楽部の奨学金を受給開始し、2年間給付された9名の進路について大学等より回答があった。

給付9名中以下の内訳となっている。

産婦人科： 4名(うち1名は家庭医診療科で産科も診療する)

放射線科： 2名

麻酔科 蘇生： 1名

整形外科： 1名

泌尿器科： 1名

落合和徳副理事長「産婦人科を希望するもの、という条件で応募するが、受給途中では学習記録やレポートの提出は求めているということか。」

八重樫伸生理事「今までは何も求めていなかったもので、今後は毎年、学習記録やセミナーの参加レポートなどを担当教授に提出する仕組みにしたい。」

吉川裕之理事「奨学生が産婦人科に入らないとすれば、奨学金拠出者から見ると奨学金の目的を達していないことになる。他の奨学金では返還を求めていることが多いのではないか。」

片瀧秀隆理事「今回の調査はこの制度初年度の結果だが、初年度は選定が少し甘い面があったり、4年生終了時の応募だけなので進路決定がまだ不安定な人が多かった。次年度以降は少し対応がしっかりしてきていると思う。」

岩下光利理事「最初は4年生だったが今は6年生まで受け付けているので、今後は変わって来るだろう。ところで西日本高速道路エリアパートナーズ倶楽部に対する報告をどうするか。」

和氣徳夫監事「最初にこの話があった時は、地域医療への貢献が先方の目的であったと思う。その目的は達している訳で、本会としては今後もっと工夫をして産婦人科に止まってもらうことを考える、ということではないか。」

嘉村敏治理事「当初の先方の反応は産婦人科に入る人を少しでも増やせれば良いということだったと思う。まだ不十分ながらその目的は満たしつつあるので、進行過程を一々報告することはないように思う。」

小西郁生理事長「今回特にこの結果を通知することはしないが、奨学生が産婦人科に来るようにいろいろと工夫をして進めていただきたい。」

八重樫伸生理事「応募の際に署名をした教授との関係を密にして行けば、漏れは少なくなると思うので、その方向で進めていきたい。」

小西郁生理事長の提示した方針につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

10) 地方連絡委員会 (落合和徳副理事長)

4月14日に地方連絡委員会を開催する予定である。 [資料：地方連絡1]

小西郁生理事長「産婦人科専攻医の増加がやや頭打ちになっている。このなかで地域格差が議論になっているが、各ブロック毎の専攻医登録状況をみると各地方も良く頑張っている。各地方

で魅力ある専攻医教育プログラムを提示して行くことが専攻医増加の鍵になると思うので、新しい地方の時代という観点で総会や地方連絡委員会で訴えて行きたい。」

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会（嘉村敏治委員長）

(1) 会議開催

3月15日に第3回広報委員会を開催した。

(2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報1]

(3) ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について [資料：広報2]

(4) ホームページアクセス状況について [資料：広報3]

(5) 本会 HP 会員専用ページに掲載の武田薬品工業（株）バナー広告について、4月1カ月の継続が決まった。

2) 未来ビジョン委員会（吉村泰典委員長） 特になし

3) 震災対策・復興委員会（岡井 崇委員長） 特になし

4) 診療ガイドライン委員会（吉川裕之学会側調整役）

(1) 産科編委員会（水上尚典委員長）

① 「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2008」頒布状況について

4月4日現在、入金済11,966冊、後払希望0冊。

② 「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011」頒布状況について

4月4日現在、入金済12,376冊、後払希望102冊。

③ 会議開催

・平成23年度第2回作成委員会を2月29日に開催した。

・平成24年度第1回作成委員会を7月18日（水）に開催する予定である。

(2) 産科編評価委員会（海野信也委員長） 特になし

(3) 婦人科外来編委員会（八重樫伸生委員長）

① 「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について

4月4日現在、入金済10,598冊、後払希望37冊。

② 会議開催

平成23年度第2回作成委員会を3月25日に開催した。

③ 産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編作成委員会委員委嘱について

現在の産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編作成委員会委員の任期が平成24年総会終了（平成23年に委嘱された委員は平成24年臨時総会終了）までなので、新たに平成26年定時総会終了まで委嘱する。 [資料：ガイドライン1]

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(4) 婦人科外来編評価委員会（峯岸 敬委員長） 特になし

(5)兵庫県産科婦人科学会から、「産婦人科診療ガイドライン産科編 2011 に対する意見書」が送付されてきたので、これに対する回答を作成した。 [資料: ガイドライン 2、3]

木村正理事「回答内容には賛成であるが、これをどのように公開するのか。」

水上尚典委員長「ホームページに公開して、会員には共通の認識を持っていただきたい。」

岡井崇副理事長「質問とその回答を、その度にホームページに載せる必要はないのではないかと。質疑のなかで重要なことについて機会があった際に知らせて行けば良いのではないかと。」

吉川史隆理事「質問者もホームページに載るとは考えていない可能性があり、載せる場合は質問者の許可が要るだろうし、また小さな質問もあるわけで、どこで線引きして載せるのかという問題も起こる。質疑をまとめたものを載せるのは良いが個別案件の掲載は控えた方が良い。」

吉川裕之学会側調整役「ガイドラインの作成では常にオープンに意見を徴集している。これを超えた形で、理事長宛に質問書を出せば公開の回答が返ってくる、ということを通例とすることには慎重な検討が必要ではないかと。」

嘉村敏治理事「ガイドラインについては、ご意見は委員会宛にご連絡くださいという一言が入っているわけで、その一つと考えるとホームページには載せなくても良いように思う。」

小西郁生理事「今回の質問状は広く公開することを前提に書かれてはいないようなので、ホームページには載せない方針としたい。」

吉村泰典理事「その方針に賛成だが、回答を送った後の動きを見てから決定すると良い。」

小西郁生理事と吉村泰典理事の提示した方針につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

5) コンプライアンス委員会 (平松祐司委員長)

(1) 利益相反情報開示請求書 [案] を作成した。 [資料: コンプライアンス 1]

6) 医療改革委員会 (海野信也委員長) 特になし

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会 (竹下俊行委員長)

(1) 会議開催

4月11日に第64回日産婦学会学術講演会男女共同参画・女性の健康週間委員会企画打合せ会を開催した。

(2) 地方学会担当市民公開講座について [資料: 男女共同 1]

(3) 女性の健康週間 2012 について

①2012年イベント報告 [資料: 男女共同 2]

②丸の内キャリア塾女性の健康週間特別セミナー参加者全員に、児童虐待防止に関するパンフレット配布を行った。

③東京新聞より小田瑞恵委員に取材申込みがあり、3月1日朝刊に女性の健康週間の周知とともに女性の健康に関する記事が掲載された。 [資料: 男女共同 3]

8) 若手育成委員会 (齋藤 滋委員長)

(1) 第2回産婦人科スプリングフォーラムについて

平成24年3月3日(土)4日(日)の両日にわたり京都平安ホテルで開催した。

[資料: 若手育成 1]

(2) 第3回以降の産婦人科スプリングフォーラムについて

第3回は京都市・京都平安ホテルで平成25年3月の開催を予定している。

第4回以降については、開催場所等についても考慮したいと考えている。

(3) 第6回産婦人科サマースクールについて

すでに案内の通り、8月11日(土)12日(日)に岩手・ホテルメトロポリタン盛岡において開催する。

今回は盛岡で開催すること、前日の10日(金)に被災地視察を行うため、第64回学術講演会会場においてポスターの貼付、リーフレット配付を行う。

4月末に専攻医指導施設等にポスターとリーフレットを送付する予定である。

海外からの震災義援金の使途については、検討を進める予定である。

① 会議開催

第1回全体打合会を4月15日(日)に開催、それに引き続き腫瘍分野ならびに若手医師企画打合会を開催する予定である。

(4) 第6回産婦人科サマースクール若手医師委員を決定し、依頼状を送付した。

[資料:若手育成2]

9) 臨床研究審査委員会 (水沼英樹委員長) 特になし

10) 医療安全推進委員会 (岡井 崇委員長)

(1) 第1回医療安全推進委員会を3月15日に開催した。[資料:医療安全1]

(2) 「医療事故調査に関する検討委員会」答申に関するアンケート調査集計結果を受領した。

[資料:医療安全2]

(3) 日本医療安全調査機構より、「診療行為に関連した死亡の調査分析事業」に係る平成24年度負担金の送金依頼を受領した。本会負担金は225万円である。 [資料:医療安全3]

岡井崇委員長「手術の合併症を調査している学会が増えている。産婦人科領域では脳性麻痺や母体死亡は対応しているので、手術についての調査に取り組むかどうか、取組む場合の実施方法について医療安全推進委員会で検討することにしたい。」

III. 平成24年度臨時総会運営について

(1) 代議員からの質問・要望事項 [資料:総会1]

落合和徳委員長「今回の倫理についての質問は、総会で回答して終わりという性質のものではなく、倫理委員会での今後の検討課題をいただいたという解釈になるかと思う。」

吉川裕之理事「社保委員会報告で表現に洩れがあった件について小林隆夫代議員から質問が出たが、社保委員会の中の話でもあり、正誤表を出して配布することとしたい。」

IV. その他

青木陽一婦人科腫瘍委員長「改定作業を進めてきた子宮頸癌取扱規約、子宮体癌取扱規約改定第3版が発行となったので報告しておく。」

以上